守る会費値上げにご協力を訴えます

各地の〝CO・遺族守る会〟に所属なさっている仲間の皆さんをはじめ、本紙を御愛読くださっている皆さん。

もともと本紙は、団体であると個人であるとを問わず〝CO・遺族守る会〟にご加盟くださっている皆さんにご愛読願い、そして、三池のCO・遺族闘争を軸とする命を守る闘いをご支援いただくと同時に、それぞれの土地・職場で同じ闘いを強め割を思えば、前年来の狂乱物価のなかでもあらゆる犠牲をしのび、会費の値上げを避けてまいりましたのはご承知の通りです。

ところがひき続く諸物価の値上がりは、もしこのまま推移すれば、本紙の発行はもちろん、CO・遺族を守って闘う命を守る闘いそのものが困難にぶつかる段階に立ち至ってしまいました。今はやむを得ず皆さんにご理解を求め、CO・遺族守る会の会費（本紙購読をふくめて）を、五月以降半年で千円（一年で二千円）に値上げさせていただくことになったのです。

真にやむを得ない点ご理解願い、今後とも相変らず三池の闘いへのご支援と共に、また本紙をご愛読いただくよう心からお訴え申し上げます。どうか、よろしくお願い致します。

三池炭鉱労仂組合

メーデー大会宣言

田中内閣の〝打倒〟を
国民春闘の責任果たそう

第四十五回メーデーの今日、私たちをとりまく情勢の最大の特徴は、悪性インフレの昂進と狂乱物価であり、国民生活はまさに破綻の極に達しています。

その根元はいうまでもなく大企業の横暴かつ、反社会的な物価つり上げ、買い占めであり、またこれを放置してきた田中自民党内閣の意識的怠慢によるものであります。

私たちはこれに対し、インフレによって最大の被害を受ける階層の人たちへの抜本的対策を中心に「国民春闘」「弱者救済」を掲げ七四春闘にとりくんできました。

大牟田地区における春闘は、民間単産を中心に大方の終結をみていますが、例年の如く中小労組の闘いは、メーデーを越して今からきびしい段階を迎えようとしています。

私たちはこれに対し、インフレによって最大の被害を受ける階層の人たちへの抜本的対策を中心に「国民春闘」「弱者救済」を掲げ七四春闘にとりくんできました。

さらに国民春闘の大牟田における大きな課題は、最低賃金闘争をテコとする「地場賃金引きあげ」のより具体的な追及であります。

とりわけ三井の歴史的な低賃金政策を打破する闘いは、下請・発注単価の引きあげであります。この闘いの追及は、生活保護、失対賃金の級地引きあげにつながり、中小零組織労働者に対して、国民春闘としての責任を果たす結果となります。

さらに四・一一ゼネストで日教組にかけられた反弾圧の闘いも、追及すべきものであります。そのためにも、目前に迫っている参議院選挙で、国民の生活と権利、平和を守るため、全勤労市民が力を合わせて〝反自民〟の旗印のもと「保革逆転」の勝利に向って、総力をあげて闘いぬく決意を集会参加者全員で確認するものであります。

国民春闘を成功させ、参議院選挙の勝利で田中内閣打倒をめざして、闘いは今から、闘いは本日からであることを全体で意志統一し大会宣言とします。

民主教育の擁護はもちろんのこと住民のための地方自治確立、憲法改悪反対につながる極めて国民的課題としてとらえ、田中内閣打倒の日まで休むことなく、徹底的に

×　×

三川指導部前のたたずまい。せまつてきた参院選への決意がみなぎつている。

新エネルギー政策を確立せよ
第二次中央行動を展開
炭労、政府（通産大臣）に要求つきつける

炭労は七～十日の間、新しい石炭政策の樹立を要求して〝第二次中央行動〟をくり広げ、政府に対し〝新総合エネルギー政策の確立〟をめざす要求をつきつけると同時に、友誼各労働組合にもこの闘いへの協力を要請したが、この要求を実現するうえからも、今目前にせまってきた参議院選挙の重要性が改めて提起されている。

炭労の第二次中央行動に、三池労組からは主婦を含め十人が参加したが、北海道の各ヤマに高島など、結集した総員は百十人内外にのぼった。

行動の重点は、何といっても当の責任省＝通産省に集中したのは述べるまでもないが、炭労の主張点は、「石炭見直しは、何よりもまず労働条件の見直しから出発すべきである」というところで、これは当然なこととといわなければならない。

とまれ炭労の奥谷委員長の名をもって、中曽根通産大臣に提出した要求書のおもな内容は、次の通りである。

第一に、新総合エネルギー政策を確立すること。その内容は――

(1)エネルギーの安全供給を第一に考えること。

(2)このうえに立って、国内エネルギー資源（なかんずく石炭資源）の位置づけを明確にし、その完全な開発利用をはかること。

(3)個々のエネルギー情勢の変転に左右されないものとすること。

そのためには「資源エネルギー省」を設置し、総合的な観点に立ったエネルギー行政を推進すること。

第二に、新石炭政策を確立すること。

第一の項との重複は避けるが、とくに「石炭公団」を設立し、国内炭・輸入炭の買い取り、輸入および販売は、すべて同公団の専業とすること」や、当然ながら炭鉱労働者の労働条件の引きあげ、人命尊重の坑内保安の確立などの事項が内容となっている。

この石炭政策要求の実現にとっても、きたる参議院選挙は、炭鉱労働者には非常に重大な意義をもってきた。

君が代と日の丸

時評

○…『君が代』は国歌でしょうか。いいえ、一度も国歌であったことはありません。古今和歌集に作者不詳で載っている元歌は、「あなたは永遠に生きてください。小さな石が大きな岩に育ち、コケがはえるまで」という意味の祝いの歌とも、恋の歌ともいわれます。ところが、これが明治の軍部によって〝天皇賛歌〟にすり変えられ、小中学校を通じて祝祭日に歌うことを強制され、国民は「国歌」と錯覚させられたのです。

○…『日の丸』は国旗でしょうか。これもちがいます。封建時代、薩摩藩の貿易船がかかげた旗じるしが、明治以後の日本商船旗に使われ、陸軍、海軍の旗章へと広がりましたが、法律で「国旗」と定められたことはないのです。商船旗と海軍旗では旗の寸法日の丸の位置などがちがい、これを統一して「国旗」としようと昭和六年、当時の帝国議会に「大日本帝国国旗法案」が提出されましたが、まとまらずに終わっています。

○…国歌にせよ、国旗にせよ歴史の中で国民の総意にもとづきおのずとできるもの。時の為政者や権力者の押しつけでできるものではありません。フランス革命が生んだフランスの国歌「ラ・マルセイエーズ」の朗々とした人間解放のひびきと、わが『君が代』の陰気なメロディはあまりにも対照的です。『君が代』『日の丸』を「おスモウの歌」や「テレビのエンドマーク」から国旗・国歌に格上げしようとする田中首相の政治感覚は、明治の軍閥政治家と五十歩百歩といえます。

【連合】

三池に学ぶ会開催
大分・長崎全逓の青年部

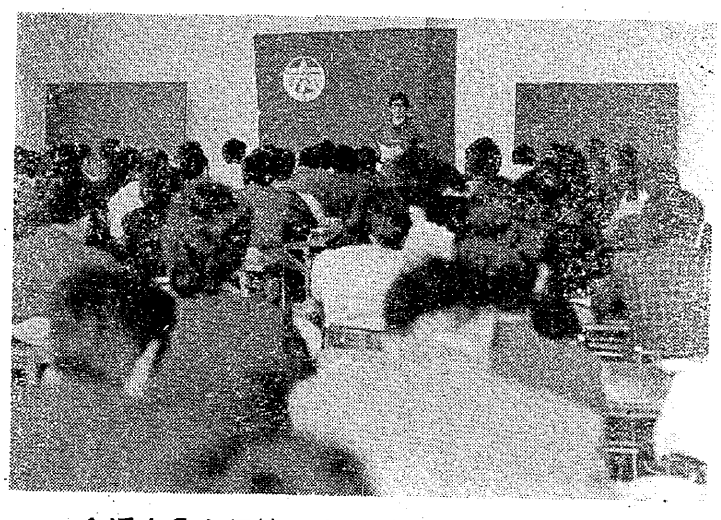
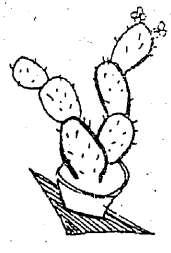
全逓労組大分と長崎を一丸とした〝三池に学ぶ会〟もすでに今年四回めを迎え、去月二十七～二十八の二日間に、一泊二日の日程で開催された。

この催しは両支部の青年部によって主催され、今年の参加者約百人。それぞれ貸切りバスで乗りこんできては、組合員の家々に宿泊し、心から交流を行なった。

参加者たちは例年になく熱心で三池の闘いの経験に耳を傾け、CO患者守る会に加入した人が少くなかった。

来年もまた開催されるに相違ないが、それぞれの責任者は大分が尾立正勝さん（国東郵便局勤務）長崎が阪口富夫さん（長崎中央郵便局勤務）だった。

参加者皆さんの、今後の健闘を心から祈るとしよう。


全逓大分と長崎の青年労働者たちが一堂に結集した。表情は、希望に輝いていた。